

みんなde なかよく!
minna de nakayoku manabousai!!
まなぼうさい!!



タスケ三兄弟

さいがい 災害への対応・対策

この資料は財団法人自治体国際化協会の
助成により作成されています

1. ^に逃げるための^{じゅんび}準備

^{さいがい} ^お災害が起こったとき、^{すいどう} ^{こわ}水道が壊れて^の ^{みず} ^て飲み水が手に入ら
^{なくな} ^{たり}なくなったり、^{どうろ} ^{こわ}道路が壊れて^{たす}助けが^こすぐに来られない
^{かのうせい}可能性があります。

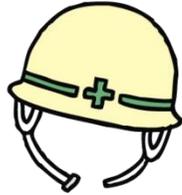
^{さいがい} ^{はっせいご}災害発生後、^{すうじつかん} ^た数日間は^た ^き ^が食べたり着替えたり
できるように^{じぜん} ^{じゅんび}事前に準備しておきましょう。



ひじょうもちだしひん ようい 非常持出品を用意しよう

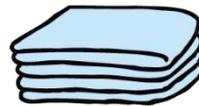


- ヘルメット・防災ずきん 手ぶくろ (軍手)



に逃げる時、けがをしないために身に付けましょう。

- 寝袋 毛布 タオル 下着類 (着替え)



ね寝るときき着替えるときにきれいなものを使いましょう。

かいちゅうでんとう
 懐中電灯



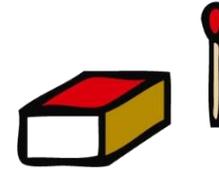
でんき と
電気が停まる

ロウソク



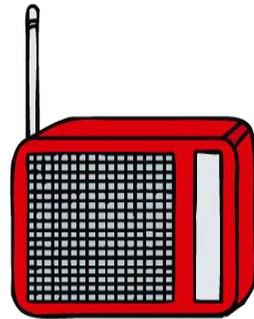
よる ま くら
夜は真っ暗です。

マッチ・ライター



あか ひつよう
明が必要です。

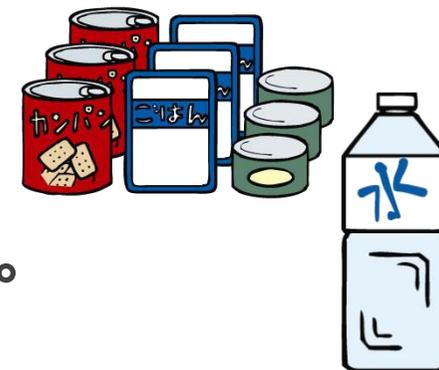
ラジオ



さいがい じょうほう て い
災害の情報を手に入れることができます。

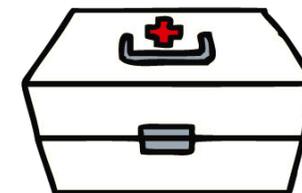
^{かぞく} ^{かぶん} ^{しょくりょう} ^{いんりょうすい}
 家族の3日分の食料と飲料水

^た ^{もの} ^の ^{もの} ^{きちょう}
食べ物や飲み物がとても貴重になります。



^{きゅうきゅうやくひん} ^{じょうびやく}
 救急薬品・常備薬

^{じびょう} ^{ひと} ^{ひつよう}
けがをしたときや持病がある人に必要です。



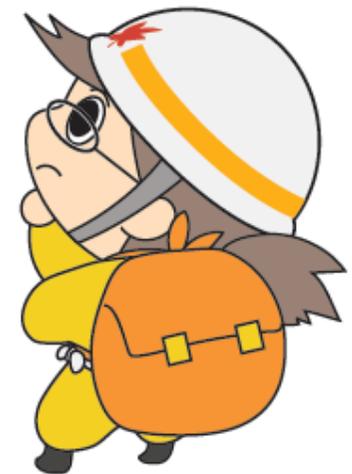
^{しょうかい} ^{いちぶ}
ここで紹介したものは一部です。

^{ほか} ^{なに} ^{ひつよう} ^{かんが} ^{じゅんび}
他にも何が必要か考えて準備しておきましょう。

2. どこへ逃げるのか

いつも使っている道でも、災害時には危険な道になる
ことがあります。

安全な避難ルートを使って、決められた避難場所に落
ち着いて避難しましょう。





ひなんぼしょ 避難場所・

ひなん かくにん 避難ルートの確認

さいがい お ひなんぼしょ す
災害が起こったときの避難場所はみんなが住んでいる
ちく き
地区ごとに決まっています。

たいてい ぼあい がっこう こうみんかん ひなんぼしょ
大抵の場合は、学校や公民館が避難場所になっていま
す。ちょうないかい し く たんとうか き かくにん
す。町内会や市や区の担当課で聞いて確認しておきま
しょう。

ハザードマップの^{かくにん}確認



さいがいじ ^{まち} ^{きけん} ^{ばしょ} ^{ひなんばしょ}
災害時の、町の危険な場所や避難場所がわかる「ハ
ザードマップ」というものがみなさんの家^{いえ}に配^{くば}られ
ています。

ハザードマップには^{じしん}地震、^{しんすい}浸水、^{たかしお}高潮、^{こうずい}洪水、^{どしゃさいがい}土砂災害
など、^{さまざま} ^{しゅるい}様々な種類^のものがあります。(場所^{ばしょ}によって
^な無いものもあります。)

ハザードマップ

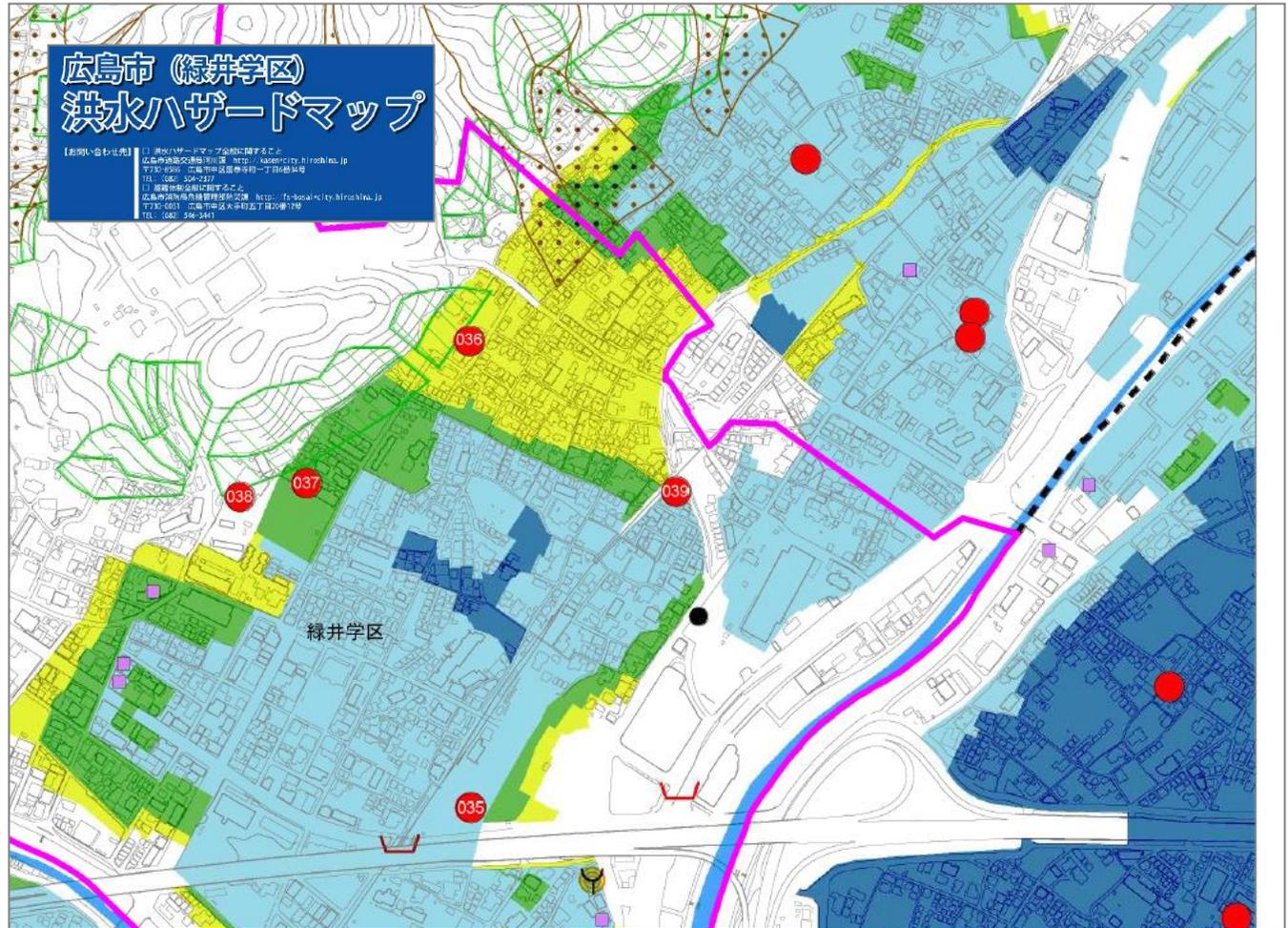
れい
(例)

みぎ ひろしまし
右は広島市で

こうかい
公開されている

こうずい
洪水ハザード
マップです。

きけん ぼしょ いろ
危険な場所が色
で分けられてい
ます。



予想される浸水深		5.0m以上	2階屋根以上が水没
		2.0m~5.0m未満	2階部分が水没
		1.0m~2.0m未満	1階部分が水没
		0.5m~1.0m未満	床上まで浸水
		0.5m未満	床下が浸水

ハザードマップはお家うちに配くばられているか、ホームページで見るみことができます。わからない場合は、市ほあいや区しの担当課たんとうかに問とい合あわせてください。



かぞく れんらくほうほう 3. 家族との連絡方法を決めよう

さいがいようでんごん つか あんぴかくにん
災害用伝言ダイヤル「171」を使って、安否確認を
するのための録音ろくおんと再生さいせいができます。

でんごん ろくおんほうほう
・伝言の録音方法

でんごん さいせいほうほう
・伝言の再生方法

「171」をダイヤル

「1」をダイヤル

「2」をダイヤル

じたく でんわばんごう しがいきょくばん
自宅などの電話番号を市外局番からダイヤル

4. 知る



まずは、^{さいがいじょうほう}災害情報・^{ぼうさいじょうほう}防災情報^しを知ることが^{たいせつ}大切です。

^{さいがい}災害の^{ようす}様子を^{さき}先に^し知ることができれば、^{どこに}どこに、^{どの}どの
ように^に逃げたらよいのかを^{はんだん}判断することができます。

さいがいじょうほう て い 災害情報を手に入れよう！

さいがいぼうさいじょうほう
災害防災情報はどこからどうやって手に入れること
でき
ができるでしょうか。

• テレビ、ラジオ

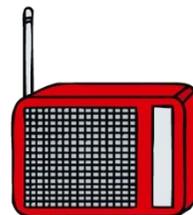
• メール

• インターネットニュース

けん しまち こうほうしゃ
• 県や市町のホームページや広報車

ぼうさいぎょうせいむせん
• 防災行政無線

など



インターネット・ケータイ^{でんわ}電話

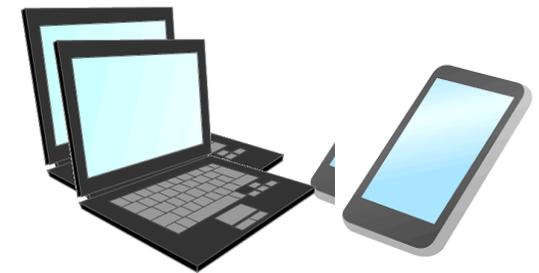
^{さいきん}最近ではインターネットやケータイ^{でんわ}電話^{つか}を使って、い
つでもどこでも^{さいがいじょうほう}災害情報^しを知ることができます。

^{かぞく}おうちで家族^{いっしょ}と一緒に^{しら}調べてみよう！

^{ひろしまけんぼうさいウェブ}
・ **広島県防災web** (<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/hdis/>・)

^{ひろしまけんぼうさいじょうほう}
・ **広島県防災情報メール**

(<http://www.bousai-mail.pref.hiroshima.lg.jp/home.jsp>・) など



ひなんかんこく 避難勧告

テレビ・ラジオ、^{こうほうしゃ} 広報車、^{ぼうさいぎょうせいむせん} 防災行政無線などから知る

^{さいがいじょうほう} 災害情報に ^{ひなんかんこく} “避難勧告” があります。

^{ひなんかんこく} “避難勧告” は ^に 「逃げてください」という ^{あいず} 合図です。

^{ひなんかんこく} “避難勧告” が ^で 出なくても、^{きけん} 危険を感じたら ^{じょうきょう} 状況を

^{はんだん} 判断して ^{じしゅてき} 自主的に ^{ひなん} 避難しましょう。



5. ^に逃げる

さいがい お
災害が起こったときに、いちばんたいせつ
じぶん
のちを^{まも}守ること、^{たす}助かることです。

さいがい しゅるい に かた
そのために災害の種類と逃げ方
し
を知らなければいけません。



おおあめ たいふう たかしお に 大雨・台風・高潮から逃げる

- ちか みず なが こ ちじょう に
・地下には水が流れ込むので、地上に逃げましょう。
- かい しんすい みずびた かい
・1階は浸水で水浸しになるかもしれないので、2階
いじょう に
以上に逃げましょう。
- ひなんかんこく かぞく
・「避難勧告」がでたら、家族や
となりきんじょ ひと あんぜん ひなん
隣近所の人たちと安全な避難
ばしょ に
場所に逃げましょう。



どし しゃ さいがい に 土砂災害から逃げる

あめ ふ つづ じめん どし しゃ さいがい お
雨が降り続くと地面がゆるくなるので、土砂災害が起
こる危険が高まります。

どし しゃ さいがい あめ
土砂災害は雨がやんだあとも
はっせい ちゅうい
発生することがあるので、注意し
ましょう。



どせきりゅう もしも土石流にあったら

どせきりゅう
土石流の速度はおよそ時速40km。じそく キロメートル くるま おな 車と同じくらいすすの速度でまっすぐに進んでいきます。

どうしたらいいの？



^{どせきりゅう}土石流にあつたときは、できるだけ^{たか}高いところに^{ひなん}避難
しましう。土石流が^む向かつてくる^{ほうこう}方向とは^{よこむ}横向きに
^に逃げて、^{たか}高いところを^{さが}探しましう。



じしん 地震から逃げる

じしん お
地震が起きたときは、たお 倒れるものやこわ 壊れるものがない、
ひろ ぼしょ へ や ま なか に
広い場所（部屋）の真ん中に逃げましょう。そして、つくえ
のした 下など、お 落ちてくるものからみ まも 身を守る場所に逃げ
ましょう。



つなみに 津波から逃げる

うみぞ ちいき かわ とく きけん はや とお
海沿いの地域や川のまわりは特に危険です。早めに遠く

たか いち に
や高い位置へ逃げましょう。

ひがしにほんだいしんさい 10m以上の高さの波が押し寄せてきました。

ビルのかい4階くらいの、できるだけ
たか高いところへ逃げましょう。



に 逃げる とき の 気持 ち や 考 え

さいがい 災害 の とき、 つぎ 次の よう な きも 気持 ち に な っ て し ま い に 逃 げ る
のが おく 遅 れ て し ま う こ と が あ る の で き 気 を つ け ま し ょ う。



- ^{じぶん}自分 ^{だいじょうぶ}だけは 大丈夫
- ^にみんな ^に逃げない から ^{じぶん}自分 ^にも 逃げない
- からだが ^{うご}動か なくなる (^{こわ}怖い ・ ^{ふあん}不安)

6. ^{たす}助け^あ合う

^{さいがい}災害^{かか}に関わらず、^{こま}困った^おことが起きたときは、^{たが}お互いに^{たす}助け^あ合うことが^{たいせつ}とても大切です。

^{ふだん}普段から^{かぞく}家族、^{しんせき}親戚、^{きんじょ}近所の^{ひと}人たちが^{なかよ}仲良くすることで、^{たす}助け^あ合いの^{こころ}心が^う生まれてきます。



まずは、^{きんじょ}近所^{ひと}の人にあいさつするなど、
^{こえ}「声かけ」からはじめてみましょう。



この資料は財団法人自治体国際化協会の
助成により作成されています